レッスン:SPA77

テーマ：創造の元型

SPA77/KE2000 M112/32/00

私の姉妹・兄弟たち、スピリット、光、火の子供たちよ。私たちはいつも主、絶対、主の聖性に抱かれています。

これまでのレッスンで、創造界を支える全ての背後に存在する法則である創造の元型の重要性について説明してきました。それは元型であり、それは法則であり、それは人間のイデアのフォームの背後にある法則でもあるのです。人間のイデアのみならず、私たちが聖霊とよぶイデアのフォームの背後にある法則でもあります。

これまでのレッスンでのべたように、もし人がアークエンジェルを見るとするなら、その形は人間のフォームと全く同じです。

さて、フォームは実際に法則ではありません。前回のレッスンで述べたように、そのフォームは生それ自体から来ます。なぜなら、フォームは偶然そうなったものではなく、何であれ表現され、特に築かれるもの全ては元型としての法則によっているからです。

しかし、元型はその上に全てが築かれるものとして、その存在はどこから来るのでしょうか？それは生それ自体、つまり全体としての絶対存在、言い換えれば多重性としてのワンネスから来ます。最初の黙想の後、特定の黙想に参加するそれらのモナド・セルフだけではありません。

特定の黙想は最初の長方形のなかです。そしてそれはモナド・セルフのためのだけのもので、モナドセルフは創造界の中へそれ自身の微細な部分を表現します。言い換えれば、それらは神の黙想の動きに参加するということです。なぜなら、創造界それ自体、あるいは創造界のいかなる現れに関しても、それが実際に生じていることだからです

それでは、法則または元型はどこから来るのか、という質問に戻りましょう。それは生それ自身の本質から来ます。それは生の本質のなかにあるのであり、創造界にあるのではありません。それは創造された何かではありません。神の黙想の結果でもありません。違います。それら全ての法則は絶対存在の本質のなかにあるのです。無からは無しか生じません。

ですから、説明したようにこの創造界の元型の最も重要な部分は３つあり、上と下にある２つの大きな三角形、それに上から２番目の長方形です。上の長方形ではありません。なぜなら、そこには全くアプローチできないからです。その長方形は現れと創造のための特定の神の黙想を示しています。それは勿論、様々なイデアを通じてそれ自身から微細なスパークを放出するスピリット・セルフによって行われます。その黙想には私たちは全くアプローチできません。後に創造界における現れとしての生としても不可能です。

生がそのステートに入る唯一の時は、魂のセルフ・エピグノシスが２番目の磔を通過し、三番目の磔つまりテオーシスに進む時だけです。その時初めて、現れとしての生はその長方形にアプローチすることが可能です。

ですからその長方形はしばらく置いておいて；中宇宙的に言うと本当のワークはこの元型の一番下にある大きな三角形において行われます。

勿論小宇宙的に、全体にワークする必要があります。なぜなら、これは法則であり、繰り返しますが、フォームと私たちのサイコノエティカル体は人間のイデアのフォームとマッチしていないからです。マッチさせるためには、いわゆる生命の木にワークする必要があります。なぜ生命の木なのでしょうか？それを生命の木と呼びますが、実際にそうだからです。それは存在し、実在するもの全てを維持しています。

Page2

勿論、生が存在の世界にある時には、その法則は元型、イデアだけですが、しかしそれは「そこ」にあるのです。勿論、それは実存の諸世界で最大の役割を果たしています。この法則は最小のなかにおいてさえ見出されます。形としての形について話しているのではありません。法則としての形です。この法則は私たちが述べたそれら全てのイデアの形を維持します。

それでは、それら他の形は人間のイデアの形と同一ではないのでしょうか？形（シェイプ）、フォームという時、形は肉体の形をも含みます。この法則はその原子の中に見出すことができます。しかし、その原子は人間のイデアの形をしているのでしょうか？違います。しかし、原子の中には何であれ生それ自体を現す能力を見出すことができます。それは息づいていますが、現れはありません。物質の原子でさえ息づいています。なぜならその中には動き、活動があるからです。全てが存在し、実在するのはその動き、活動のゆえです。そして活動がある時、そこにはバイブレーションと振幅があります。それは生が存在することを意味します。

ですから、全てが存在し、実在するのは生の結果です。しかし、生が十分に表現されるためには、生がそれを通じて現れる手段それ自体が人間のイデアの形を持つ必要あります。さもないと、生は完全に表現されません。それゆえに、私たちは実存の諸世界に存在するもののなかに人間のイデアの形、フォームを見出すことがないのです。

ですから現在のパーソナリティーはこの元型についてワークする必要がありますが、同時に現在のパーソナリティーの素質的可能性のサイクルによって提供されている他の助けについてもワークする必要があります。

さて、人間には純粋なハートがあり、無条件の愛を現していると人々が述べているのを聞きますが；しかし現在のパーソナリティーは欲望的想念ではなくて想念的欲望のエレメンタルを生み出そうとします。つまり、現在のパーソナリティーの不定形の形を再形成するわけです。

私たちはここから無条件の愛を現しているでしょうか？言い換えるなら、このポジションから自分を現しているでしょうか？不定形の体を再形成するとき、私たちはこのポイント、サイキカル・センターから考えるでしょうか？多くのレッスンで述べたように、最初の磔に到達する人は自動的にこのポジションに同調します。そしてこのセンターはサイキカル体のセンターですが、その瞬間から自動的に何であれ主、絶対存在から現すようになります。それはサイキカル体のセンターなのですが、実際にそれが起きているのです。このセンターはそれが表現されるとき、現在のパーソナリティーが脇に置かれると、それは主を現すのです。

それは継続的に起きるわけではありません。誰かが他の同胞の人間に助けを与える時にそれが起きるのです。名前をもっているパーソナリティーが主の助けを与えることはできない、と言う理由はそれです。本当に助けを与えるのは主なのです。主がそれ自身を現す時、このサイキカルセンターから主が働くのです。それは神の黙想です。

何回も述べたように、自己実現した現在のパーソナリティーは同調のレベルには留まりません。惑星上で助けを必要としているバイブレーションに応じて自分のバイブレーションを下げます。気づきが低いレベルの人々の所でもそうします。

そのようにして主の慈悲が人類一般に表現されます。なぜなら痛みを軽減するためには肉体は原因の結果を経る必要があるからです。そしてその結果は物質においてのみ現れます。マインドの他のバイブレーションには影響、結果はなく、物質においてのみ現れます。

ですから自己実現した後における最も重要なセンターはハートのセンターであり、初めは、そこに他の全てのセンターがあるのです。しかし、説明したようにそれらのセンターの位置を分離させる必要があります。それらのセンターとはノエティカルセンター、および肉体の健康に関するセンターです。１つは上に行き、もう１つは下に下がります。そしてサイキカル体のセンターはハートに留まります。しかし、同じ位置に留まるのですが、最初はそのセンターは活性化されておらず、純粋ではありません。それらのセンターを活性化する必要がありますが、しかしそのためには現在のパーソナリティーの不定形の諸体が再形成される必要があります。

そうです、それらのセンターを活性化する唯一の方法は、私たちが述べたものです。他の方法があるでしょうか？どう思いますか？前に述べたように、現在のパーソナリティーが無知の領域に入るのを助けた同じ法則がまた、現在のパーソナリティーが無知の領域から自由になるのを助けるのです。同じ法則です。ですから、これらの法則のなかには二元性があります。肯定的、および否定的アプローチがあります。もしあなたが肯定的なアプローチを望むなら、不定形の諸体を再形成することによってそれらのセンターが活性化されます；つまりそれはサイコノエティカルな上昇によるということです。

Page3

しかし、もう一つの方法があり、それは時代を通じて行われてきたものです。それはマジックです。時計の針には時計回りと反時計回りがあります。時代を通じてその動きに従ってきたのは偶然だと思いますか？違います、その動きはバランスの法則によるものであり、それはさらにその現れのステートを調和へと導くことでしょう。

ですから、時計回りおよび反時計回りの動きがあります。反時計回りの方法でも、ある所まではパワーと能力を示すことができます。しかし、それらのパワーと能力が表現されるためにはエレメンタルが必要となります。そして実際、何であれパワー、能力としてそれらを現すのは現在のパーソナリティーではなくてエレメンタルなのです。なぜなら、現在のパーソナリティーはそれらのエーテル的存在を投射することができないからです。現在のパーソナリティーはエーテルの手を投射して、なんであれ現象を行うことはできません。なぜなら、現象を行うためにはそれはブレーシス（＊肯定的な神の意志）の結果でなければならないからです。

現在のパーソナリティーがそれを行えるようになるためには、現在のパーソナリティーはエレメンタルを使える必要があります。しかし、どのようにしてエレメンタルを使いますか？それはマジックという方法によってです。そうです、マジックは人間があるレベルの気づきに到達できるように助けました。そうです、マジックはいわゆる本能意識のセルフ・エピグノシスを通過するのを助け、さらに素質的可能性の２番目のサイクルに入るのを助けました。つまり、潜在意識的セルフ・エピグノシスです。今地球上の大部分の人はこのサイクルにいます。大きな四面ピラミッドの下にある地のエレメントの中にいます。

しかし、このサイクルの助けは何でしょうか？マジックあるいは他の方法は、現在のパーソナリティーの墓である部屋を出るのを助けることができるでしょうか？そして大きな四面ピラミッドに入り、次のサイクルつまり３番目の素質的可能性のサイクルに入るのを助けることができるでしょうか？答えはノーです。パーソナリティーは不定形の諸体についてワークする必要があり、このサイクルにおける様々な助けを利用する必要があります。それらの助けは生それ自体から提供されています。

それらの助けは人間が発明したものではなく、様々なサイクルによって提供されており、それら全ては大きな法則、素質的可能性のこのより大きなサイクルの中にあります。

それらの助けは汎宇宙的キリストロゴスである絶対存在から直接提供されています。つまり、主ご自身の中における神の現れです。なぜなら、神はそれ自身を汎宇宙的キリストロゴスとしてそれ自身の中で現しているからです。

説明したように、この大きな三角形はアウタルキーにおける絶対存在を意味し、そこには動き、振動、バイブレーションがあり、しかもそうさせるものは何もありません。それはリアリティーではなく、ただ便宜上学ぶために言っています。実際にはそれら２つの大きな三角形が同時にあり、同じものが黙想し、またそれ自身のなかでそれ自身を表現しているのです。

さて、この現れの最大の部分は現れとしての最初の長方形のなかにあります。しかし、その上の部分は現れと創造の諸世界になかに下降します。そして、ここから下は天上人でそれは全体を提供します。その提供は直接に絶対存在、神の本質から来るものです。

ですから、全体を提供する天上人があり、生それ自体を現すための形としてのフォームがあります。そして存在あるいは実在するためには、そのなかにはこの法則が必要です。その法則は原子核の中にあります。それは目には見えませんが存在します。もし私達がそこにアンバランスをもたらせば、外側に驚くべきパワーが生じます。それはこの核のステートを維持しているのと等しいパワーです。

Page4

さて、これについて続けますが、最も重要なことは知識ではなく様々なエクササイズを実践することです。与えられたエクササイズで、それは法則のなかにあります。勿論、それらにどのようにアプローチするかは別問題ですが。

地球上にはたくさんのシンボルがあり、歴史のなかにもあります。シンボル、モニュメント（＊遺跡）、三次元のシンボル、人類が創造した３次元のシンボルです；何の結果として創造されたのでしょうか？内側からの流出です。それらの時代にそれらが人間に何を意味していたかは別問題です。しかし、全ては全ての人の内側にあります。諸宇宙でさえもモナド・セルフのなかにあります。最小についても同じ事が言えます。もし最小のものを研究するなら、そのなかに全体があります。その反対も言えます。これを続けましょう。私達はみな、主、絶対、主の聖性に抱かれています。

質問

Ｑ：存在の諸世界において、その法則には目的があるのですか？

K:それは元型、イデア、法則、原因です。勿論目的があり、それは何であれ神の黙想のなかで活動しているものがその仕事を達成できるようになることです。私たちはいわば神の黙想における分子のようなものです。そしてそれは同時に私たちの黙想でもあることを覚えておくべきです。黙想するのは絶対存在の多重性におけるすべてのモナド・セルフです。つまり私たちの「モナドセルフとしてのスピリット」がこの瞬間でも黙想しているのです。私たちはそれに気づいていませんが、それは私たちが自分の再内奥の自己に到達できないからです。

私たちはそのスピリットからの微細なスパークにすぎず、微細なスパークと言う時、それはインナーセルフである魂です。私たちは実際、魂からの微細なスパークであり、同時にこの生の海の一部分なのです。「魂のセルフ・エピグノシス」として私たちはその海のなかにいるのですが、私たちにはそれがわからないのです。その海はあらゆる物、あらゆる人を活性化します。私たち全員がその生の海からその一滴として来ています。しかしその一滴は、このステートに到達すると海と同じように話すことができるのです。しかし、そのステートで名前を持っている人を一人も見出すことはできないでしょう。転生のサイクルに留まっている間は、人間がそのステートに留まることは不可能です。地球全体が自己実現に到達するまでは、バイブレーションを下げ、転生のサイクルに留まる必要があります。その間、地球全体としてある仕事が与えられます。誰によって？絶対愛からです。その仕事が達成した時初めて、地球上の人間は戻り、魂のセルフ・エピグノシスに自己実現を与えるのです。魂はそのステートを完全に現すでしょうか？完全には現しません。なぜなら、その部分は全体ではないからです。全体が現されるためには、魂は２番目の磔を通過し、私たちが話すことの不可能なステートを通過する必要があります。そのステートについて私たちは何も知りません。そしてこの底辺、２つの大きな三角形の共通の底辺に到達し、そしてテオーシス（神との再合一）に戻るのです。

不幸なことに、全ての人間はこれら全てのヘブンを自分の理解できるレベルへと低めています。ほとんどのシステム（＊グループ）では最初の磔まで来て、そこから上がテオーシスであると見なしていますが、そうではありません。その最初の磔にどのようにして到達するのかもわかっていません。もし私たちがこのポジションからトライするなら、このセンターの中間から、それはこの大きな四面ピラミッドの下ですが、その場合そのパーソナリティーは３つの素質的可能性のサイクルとして提供されているものを通過する必要があります。どれだけの転生が必要でしょうか？とても多くの回数で、数を言わない方が良いでしょう。

そしてパーソナリティーがこのポジションに達すると、現在のパーソナリティーが体験する最大のミステリーが始まります。そしてそれは絶対愛によって行われ、それは火の洗礼というミステリーです。つまり、そのパーソナリティーは超意識的に真の５つの感覚、いわゆる超感覚を使い始めるということです。それは現在のパーソナリティーの真の感覚です。なぜなら、現在のパーソナリティーとは思考・行動の仕方以外の何ものでもないからです。それはサイコノエティカル体であり、サイコノエティカル体の五感とは超感覚といわれるものだからです。人間として私たちは現在のパーソナリティーとしてさえ、どれが真の自己であるかをわかっていません。私たちは、自分とは誰かを学ぶ必要があります。

いずれにしても、沢山のワークが必要です。もしあなた方がそれらの助けをきちんと使用しなければ、現在のパーソナリティーは上昇する代わりに静止状態に置かれます。それゆえに、ピラミッドという遺跡があり、その下には部屋があるのです。その部屋は現在のパーソナリティーの墓を意味します。何故そうであったのかは別問題です。しかし、実際にそういう意味なのです。

Page5

Ｑ：もし私の理解が正しければ、人間の形は人間、そしてアークエンジェルにも見出されると言いましたが…。

Ｋ：そのような現れであり、それは生の特質を完全に現すことでしょう。つまり、どのような現れであれ、生それ自体を現す能力を持っているということです。そして人間のイデアにはその能力があり、アークエンジェルは既にそれを行っています。しかし他の現れ、つまり生の現象にはこの能力がありません。ですから、そのフォームにはこの元型によって提供されている能力がありません。法則はそこにあるのですが、形にはその能力が与えられていません。そして勿論、人間のイデアの形は五芒星、その形、フォームによって示されています。ですから、この法則、それは五芒星の背後にある法則であり、また五芒星はこの法則の中にあります。それは現在のパーソナリティーの諸世界では、助けとしては最も大きいシンボルです。

しかし、生がその本質を完全に現している時にはそれは必要ありません、それは生の本質のなかにあり、生が本質の中にあるのではありません。ですから、誰かがこの人、この人間は無条件の愛を現しており、同胞の人間を抱きしめているというとき、その人は何もお返しを求めていません。それが実際に生じていることです。このセンターはますます純粋になっていきます。ですから、このセンターはそのポジションを現すでしょう。感情ですか？感情のセンターはもはや前と同じではありません。このセンターがより純粋になると、それは正しい思考を現すようになるでしょう。なぜならこのセンターとこのセンターの両方が発達するからです。しかし、現れは常にここに留まるでしょう。

とにかく、私たちはこのリアリティーを初めて分析しました。あなた方はそれを初めて聞いたのです。現れのセンターは常にここに留まります。考えを現す時、私たちはここ（ノエティカル・センター）から考え始めるようになりますが、つまりこのセンターを刺激しますが、しかしその現れはハートからなのです。しかし、そこが純粋なセンターになっているので、正しい思考が表現され、エレメンタルのなかでは徐々にもっと思考が位置を占めるようになります。ハートでなくて頭で考えると言うとき、その現れが頭から来るという意味ではありません。

あらゆるシステムでは、エレメンタルはこのポジションから外にでると述べています。実際にそうなのですが、しかしエレメンタルの形成です。なぜなら、ここから考えている時、あるいはここから考えている時、頭から創造の仕事が行われます。それが欲望的想念あるいは想念的欲望のエレメンタルであっても。それは気づきというフィルターが、創造として外に現すのを許した結果です。なぜなら、考える時にはエレメンタルが創造され、その想念はそのレベルを意味します…知識または気づきのレベルを意味します。なぜなら、知識と上昇は必ずしも一致しないからです。しかし、知識にとって、あるいはより高いレベルの気づきにとっても、物質としてのマインドがチャージされるからです。ですから、何であれ創造の結果として、物質としてのマインドは使用されます。

ですから、創造されたエレメンタルをここから外に放出します。誰かが考えている時には、無数のエレメンタルがチェーンのようにここから外に出て行きます。

Ｑ：それでは創造されたエレメンタルの質、そしてエレメンタルの結果、それは気づきのステートに依るのですか？

Ｋ：そうです、絶対的に気づきのレベルによります。

Ｑ：それでは気づきのレベルを高めることによって、創造されるエレメンタルは否定的ではなく肯定的な変化を与えるということですか？

Ｋ：そのとおりです。その場合、あなたが創造するエレメンタルは天使となります。実際、その時全ては同じではなくなります。たとえ同じ実存のバイブレーションの中にあっても、意味は前とは異なってきます。

Page6

同じ音楽を好む人は何人ぐらいいるでしょうか？多くはありません。誰かが好きな音楽を別の人は嫌います。しかし、全ての人が同じサウンドのハーモニーを好むようになる時が来ることでしょう。もちろん最初は、このバイブレーションにおいても、最高の音楽は自然の音によって作られた音楽であることに気づくようになります。この音楽は人間が創造したいかなるものとも比較することはできません；もしあなたが音楽家にこのことを言っても、彼らは賛成しないでしょう。

Ｑ：絵画についてはどうですか？最高の絵画は自然それ自体によるものですか？

Ｋ：自然自体？自然が提供するもの以上に素晴らしいものをキャンバスの上に描ける人がいるでしょうか？

Ｑ：書き物についてはどうですか？

Ｋ：書かれた物はある意味を現しています。意味以上の何かがあります。同調という能力です。あなたがそのステートに到達すると、あなたは自然を完全に100％楽しむことができます。

Ｑ：それは、気づきのレベルがあるところまで達すると、芸術を越えたレベルに成長するということですか？

Ｋ：芸術の能力、それは一つの能力です。しかし、芸術はその能力をいかにして外に提示するのでしょうか？それもまた気づき、理解のレベルを通じて行われます。あなたが同調のステートに達すると、あなたは誰かに同調します。あなたの観察を何であれ観察する対象に同調させます。しかし、誰かがそのステートに達した時には、その人はその能力を他の人間を助ける以外のことに使うと思いますか？使いません。

Ｑ：芸術の目的は常に人間を助けることなのですか？

Ｋ：私たちが知っている芸術ですか？あなたがある芸術を好むとするなら、それは芸術のどの分野を好むかによります。創造された何かを見ることを欲しますか？全てはあなたの前にあります。すべてはあなたの中にあり、あなたはそれをいつでも表面にもたらすのです。何であれ人間が創造したもの…この地球上ではなくても創造界において…あなたはそれを自分の前に持ってきて、それにヒポスタシス（＊ある状態にあること）を与えることさえできるでしょう。それがどのバイブレーション、物質のバイブレーションであっても。しかし、あなたはそうするでしょうか？答えはノーです。なぜですか？それら全ては現れの限界のなかにいる人間に喜びを与えるために必要とされています。生はなにも必要としません。生はただあるのみです。それを説明するのはとても困難です。

生のなかにあるものは、現在のパーソナリティーを喜ばせるようなものよりずっとずっと偉大です。諸宇宙は、現在のパーソナリティーを活性化するスパークの中にあるということができます。現在のパーソナリティーが自己実現に達すると、その瞬間から以後、現在のパーソナリティーとしてのセルフを現すのはそのスパークなのです。しかし、何度も述べたように、そこに留まりませんが、その能力はあり、時折それを現します…主の恩寵と慈悲が表現される時に。なぜなら、繰り返しますが、主の恩寵、慈悲が現され、原因・結果の法則の下にある人間に影響を及ぼすためには、その影響は肉体上にある必要があります。そしてこの部分の肉体は諸宇宙の全ての人間の肉体です。これを理解するのはとても困難なことですが、実際にそうなのです。

ですから、他人を助ける必要があるのはあなた方、現在のパーソナリティーなのです。そしてあなたと言う時、それは現在のパーソナリティーを意味します。しかし同時に、肉体をも意味します。ですから肉体を過小評価しないようにしなさい。その肉体はあなたに与えられたものです。なぜなら他人の苦しみを軽減するには肉体が必要だからです。

Ｑ：なぜですか？

Ｋ：結果を経るために。

Ｑ：他人が痛みを感じている時には、その人も同じ痛みを感じる必要があるのですか？

Ｋ：あなたはそれを受け入れる必要があります。全く同じ痛みではありませんが。結果を経る必要があります。しかし、同じ強さではありません。なぜなら、その強さは現在のパーソナリティーがそれをどのように解釈するかによるからです。意味は同じではありません。いずれにしても、これは真理の探究者であるあなた方が知るべきことです。いくらかエゴ的に思えるかもしれませんが、それが事実なのです。

Ｑ：私たちは素質的可能性のサイクルを通過していき、そこで新しいシンボル、新しいイデア、諸法則などが提供されます。つまり、本能的意識から無意識的意識、そして意識的意識へと進みますが、これは皆プロセスの一部分ですね。そのようにサイクルからサイクルへと進んでいきますが、ヘブンが私達の前に開かれるのではないということでしょうか？

Ｋ：ヘブン？どのヘブンですか？ヘブンは実際そこにあります。しかし現れの様々なバイブレーションに達するためには、あなた方はまず気づきのレベルを…自己実現にまでも…高める必要があります。現在のパーソナリティーが体験するであろうヘブンは下の３つのヘブンです。この世界のバイブレーション、そしてサイコノエティカル界の２つのヘブンであり、これら２つは分けません。ただ学習上、分離していますが。サイキカル体のみで自分を表現するということはありません。人間が無知の領域にいる間は、ノエティカル体が必要であり、その反対も言えます。そしてサイコノエティカル体なしでは肉体の現れもありません。なぜなら、肉体にはそれ自体の生命がありますが、肉体は特定の現れ、つまり特定のパーソナリティーのために築かれるからです。それゆえに人によってそれぞれ肉体の特徴も異なっているのです。

人間が自己実現に到達すると、サイキカル体は高次ノエティカル体に吸収され、ノエティカル体は完全のそのステートを現すようになります。しかし、それでもそれが他の惑星に滞在するときには、助けるためにバイブレーションを下げます。なぜあなた方はいわゆる地球外人間（＊宇宙人）を見るのだと思いますか？何故でしょうか？人間の目には見えないステートで滞在することはできないのでしょうか？助けを与えるためにはエーテル的存在にまでもバイブレーションを下げる必要があり、その時他の人の痛みをある程度背負うことができるのです。勿論ある程度までバランスをもたらす必要があります。なぜなら、彼らは身体を物質化することができますが、その結果を背負うことはできないからです。しかし時には肉体として物資化しなければならない時もあります。そして前に述べたように、何かを背負うという意味は常に法則が許す限りにおいて、という意味です。転生のサイクル内に留まっている自己実現した現在のパーソナリティーとして、法則と対等に働くことは不可能で（法則に従う必要があるのです）。

EREVNA/SPA77/KEM/3/03